



IV-NEWS

Vol. **47**



ビエンチャン都教育長も出席した第 1 期介護職業訓練修了式

も く じ

高齢者介護職業訓練報告…………… P2

国内報告、ラオス千客万来…………… P6

インターンシップ報告

石綿 美友紀(津田塾大学 3 年生)…… P3

幸子のラオスだより

～ラオスで桜が咲いた～…………… P7

久しぶりのラオス訪問

顧問 豊田 利久(神戸大学名誉教授)…… P4

お知らせ、寄付者一覧…………… P8

在留外国人支援事業

「主にアジアから来る若者の、第 2 のふるさと作り」

プロジェクト…………… P5

ラオスにとって初めての高齢者介護職業訓練

第1期介護職業訓練は2023年1月6日から4月6日まで15歳～40歳の15名(女子8名、男子7名)が3ヶ月間、ラオス人にとっては全く新しい職種の高齢者介護職業訓練が実施されました。IV-JAPAN にとっては昨年7月で日本外務省補助金事業や JICA 草の根パートナー事業が終了し、資金的には苦しい中、彩の国さいたま国際交流基金、パルシステム埼玉平和募金及びカノック奨学金/チャンパー山の民奨学金で介護職業訓練を実施することができました。応援くださったドナーの皆様には深く感謝申し上げます。

この職業訓練事業は訓練生にとっては3カ月間の生活費、食費、寮費、授業料、交通費等全額無料で学べる貴重な学びの機会でした。ラオスでのコロナのロックダウンが解除されたのが昨年4月でしたが、9月開校で準備してきた介護職業訓練に応募者が少なく、やむを得ず2023年1月の開校となりました。その理由は、経済的な苦しさのため、若者の多くは隣国タイへの出稼ぎに出ていくケースが多く、国立大学ですら昨年10月の入学者は定員割れでした。内陸国のラオスはコロナ過で経済活動が落ち込み、就職先もない状態が2年以上続きました。

介護主任トレーナーはタイのチェンマイから招聘し、チェンマイ大学病院元看護師長で日本でも介護経験のあるトレーナーにより、しっかり実技と理論を学び、ナーサイト郡訓練所の近くのお寺で血圧測定ボランティアを4週間実施し、近所の老人やお坊様たちに喜ばれました。また、右半身不随の患者宅でのインターン訓練は、健常者相手の訓練とは違い、大変実力が付きました。さらにスタディツアーで国立障害者リハビリテーションセンターやCOPEビジターセンター(不発弾展示館)などでは介護の重要性を学びました。



右半身不随の患者宅でのインターン訓練



ソンテオ(改良トラック)でスタディツアーに出発

寮生活者は遠方の子供6名、男子3名でしたが、通学過程の6名と一緒に寮菜園の世話をし、センターの前庭には竹でグリーンベッドを作りその上に落ち葉や改良土壌を敷き、10日間くらいで育つサラダ菜やもやし等を栽培しました。皆、農家出身者が多いため、難なくできました。



寮の菜園作業



毎月の誕生日会

全員無事試験に合格して、4月6日修了式がナーサイト郡訓練所でピエンチャン都教育長ご出席のもと開催されました。卒業後の進路に医学関係を選んだ訓練生も数人おり、個人宅で介護職に就職した人もいます。反省点はもともラオス人になじみのない介護研修は15～16歳の訓練生には難しい科目のようで、次回からは18歳以上としたいと思います。



タイからいらした主任トレーナーに感謝の籠



インターン生に修了証授与

インターンシップ報告

石綿 美友紀（津田塾大学3年生）

みなさん、こんにちは！津田塾大学3年の石綿美友紀です。

この度、2023年3月6日～4月7日の約5週間、IV-JAPAN ラオス訓練所にてインターン生としてお世話になりました。ブログを読んでくださった方はご存知かもしれませんが…改めて、会報誌を通じて、インターン活動についてみなさまにご報告したいと思います。

1.職業訓練所 in ナーサイトン郡

ラオスに到着してから、すぐに訓練所に向かいました。今回のインターンの大半をこの訓練所で過ごしました。私は、主に、ラオスの生活から感じたことや訓練所であったことなどを、ブログを通じて発信したり、書類をラオス語から日本語に訳したり、イベントで写真撮影をしたり、日本語と英語の授業をしたり、とさまざまな業務を行っていました。これらの業務から、学び得たことはとても多かったです。

日本語の授業の様子



訓練所兼寮の外観



みなさんは日本語が外国人にとってどれほど難しい言語なのか、考えたことはありますか？ラオス語は全部の文字が一筆書きで書けるので、ひらがなの曲線やはね、はらいの理解が根本的に難しかったようです。また、日ラオ語で対応するものがない文字は読み仮名をふれず音だけが発音の頼りになるので、教えるのにとっても苦勞しました。日本語が母語であり母国語である私にとって、これほど彼らが苦戦するとは想像していませんでした。日本語には文字が3種類あると知った時の驚き様を思い出すとクスクスと笑えます。

2.現地での生活

インターン期間、私は最初の日には訓練所から徒歩3分ほどの女子寮で、残りを訓練所2階の部屋で寝泊まりしていました。訓練所は2階建てで、1階は教室、2階はホテルのルームサービス練習用の部屋が3部屋あります。

昼ごはんは、訓練生が作ってくれたラオス料理やOJT調理コースのご飯（*詳しくはblog第4回の記事）を食べました。夜ご飯は市場へ行き、自炊用の材料や出来合いのお惣菜を買って食べました。女子寮で女の子たちが作ってくれた訓練生とは翻訳機を通して話すこともあったので正しいのかわかりませんが、知らずにロバ肉のソーセージを買って食べていたらしく、言われた時の衝撃は大きかったです！また彼らに助けをもらいながら、市場のおばちゃんと会話して、5週間の間に仲良くなれたことは嬉しい思い出です。

木や竹を燃やして調理

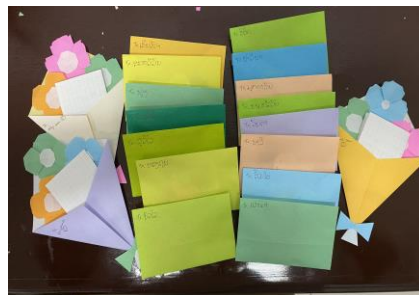


3.最後に、写真とその紹介をします！

(1)放課後に地元の子も含め、みんなでサッカーとバドミントン！



(2)最終日に訓練生とスタッフの方に、折り紙で作った手紙を渡しました。



(3)訓練所の隣で結婚式、まさかの4日間ずっとやっていました！



会報誌・BLOG を読んでくださった方々、ありがとうございました！
ຂອບໃຈຫຼາຍໆ(コープチャイライライ)！

久しぶりのラオス訪問

顧問 豊田 利久(神戸大学名誉教授)

コロナ蔓延で外国旅行も控えていましたが、3月初旬に6日間という短いラオス訪問が実現できました。主な目的は、ラオス国立大学経済経営学部(FEBM)が東京大学公共政策研究科(GraSPP)と共催で行った「第4回ラオス・日本政策研究フォーラム」に参加することでした。このフォーラムでは東芝国際基金の資金援助を得て、ラオスの社会経済発展のための広範囲な政策課題を論じますが、FEBMの先生方の研究力の向上を支援することも目的とされ、FEBMの立ち上げに関わった一人として大変感謝しています。

数年前にフォーラムを始めた当初は、研究というよりもパネルディスカッションが中心でしたが、今年の研究報告は水準の高いものが揃っていました。FEEMが設立された四半世紀前には想像もできなかった先生方の研究力の向上を確認できました。その間、日本の標準的な大学教員よりもはるかに多い頻度で外国出張や国際学会等への参加、国内での政策立案や実践への参加などを経験し、研鑽していることが窺えました。今年のフォーラムのテーマは「ポスト・コロナの社会経済発展のラオス・モデルを求めて」でした。コロナ、災害、環境などを踏まえた政策課題の他、特に最近のインフレーション、為替レート、サービス産業等の厳しいラオスの経済問題への対応に関する優れた分析が報告されました。

「無から出発しながら年を経て有意義な果実を実らせる」という点では、FEBMの発展はIV-JAPANと共通であると思います。職業訓練と高等教育という違いはありますが、「人材育成」という点では同じで、ラオスではあらゆる段階での教育を通じた人材育成が重要であることは衆目の一致するところです。



写真(上)

フォーラム参加者の集合写真。
在ラオス日本大使、JICA 所長、省庁関係者の他は
大半が FEBM の先生方。



富永代表との再会

写真(左)

FEBM 学部長(神戸大博士)のプーペット氏と。

パルシステム埼玉 市民活動支援金贈呈式

3月13日(月)生活協同組合パルシステム埼玉ぱる★てらす 4階会議室にて、市民活動支援金の贈呈式が執り行われました。IV-JAPAN は「主にアジアから来る若者の、第2のふるさと作り」プロジェクトとして、近年急増している在留外国人支援を地元さいたま市中心に着手するための、地域受け入れ地盤作りを行っています。今年度は下記の日程にて人材の育成と地域全体の理解を深める講座などを行います。



参加費：無料

参加を希望される方は、下記 IV-JAPAN 日本事務職までお申し込み下さい。
詳細な情報はホームページにて随時お知らせいたします。

<https://iv-japan.org/>

ご不明な点がございましたらいつでもお問い合わせ下さい。

TEL/FAX:048-622-8612、事務局携帯：090-9964-8612

E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

①専門的な人材の育成:核となる相談員・日本語指導員の育成(募集員数:約10名、全10回(募集は6月から))

	日時(予定)	会場(予定)	内容	講師(予定)
1	9月9日(土)	大宮区役所 多目的室	オリエンテーション(IV-JAPANの活動について、本事業の趣旨等)	IV-JAPAN 理事等 さいたま市国際課職員
	10時~11時30分		さいたま市および周辺の在住外国人事情について	
2	9月30日(土)	大宮区役所 多目的室	外国人相談対応の基礎	自治体国際化推進協会地域国際化推進アドバイザー
	10時~11時30分			
3	10月7日(土)	大宮区役所 多目的室	外国人と在留資格について 技能実習生、特定技能必修生受け入れ事情	元入管職員等
	10時~11時30分			
4	10月14日(土)	大宮区役所 多目的室	日本語指導法 1 やさしい日本語への言い換え	地球つ子グループ
	10時~11時30分			
5	10月28日(土)	大宮区役所 多目的室	日本語指導法 2 やさしい日本語とコミュニケーション	地球つ子グループ
	10時~11時30分			
6	11月11日(土)	大宮区役所 多目的室	日本語指導法 3 文化の壁を乗り越える日本語	地球つ子グループ
	10時~11時30分			
7	11月18日(土)	大宮区役所 多目的室	外国人相談演習 1	さいたま市外国人相談員ほか
	10時~11時30分			
8	11月25日(土)	大宮区役所 多目的室	外国人相談演習 2	
	10時~11時30分			
9	12月9日(土)	大宮区役所 多目的室	外国人相談演習 3	
	10時~11時30分			
10	12月16日(土)	大宮区役所 多目的室	修了式	
	10時~11時30分			

②一般市民対象の啓発事業(募集人員:会場による)

	日時(予定)	会場(予定)	内容	講師(予定)
1	2023年12月10日(日)	未定	IN-JAPANの活動紹介と ラオス料理の実習	富永幸子代表ほか
	9時~12時			
2	11月23日(祝・木)	埼玉パルシステム会議室	技能実習生によるベトナム文化紹介および日本での生活、今後について懇談	未定
	13時30分~15時30分			
3	2024年1月20日(土)	大宮区役所 多目的室	多文化共生社会の実現に向けての講演会	未定
	13時30分~15時30分			

大宮区市民活動ネットワーク団体活動紹介展示会

2月 8 日(水)～23(木・祝)大宮図書館1階展示スペースにて、大宮区市民活動ネットワーク登録団体活動紹介展示会が開催されました。これは大宮区内を中心に活動している「大宮区市民活動ネットワーク登録団体」の各団体の活動内容や、「2022大宮区民ふれあいフェア」での参加写真を展示することで、大宮区市民活動ネットワークの認知向上を図るための催しです。IV-JAPANも活動紹介のポスターにて出展いたしました。登録団体のうち 14 団体の出展があり、来場者数は 16 日間で、1,828 人(1日平均 約 114 人)の方が訪れてくださいました。今後もこういった催しに積極的に参加して、多くの方に IV-JAPAN の活動を知ってもらいたいと思います。



NGO 活動発表支援事業(国際フェア@オンライン)PR 動画



公益財団法人埼玉県国際交流協会では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった「国際フェア」に代えて、「国際フェア@オンライン」と題してNGOの皆様の活動 PR 動画を掲載しています。IV-JAPAN のPR 動画も掲載されました。8 分弱の短くまとまった動画です。ぜひご覧ください。

<https://sia1.jp/residents/fair/fair2021/>

認定 NPO 法人更新手続きのご報告

皆様もご存知の通り、IV-JAPANはさいたま市の認定 NPO 法人となっており、当会へのご寄付は寄付金控除の対象となります。認定期間は 5 年となっており、5 年毎の更新手続きが必要です。今年 1 月から市の担当者さんが日本事務局に来所され、現地調査を行いました。事務局松本はこういったことは初めてのことで、至らぬ点多々ありましたが、市の担当者さんが丁寧に教えて下さったおかげで何とか更新手続きを終えることができました。今後も認定 NPO として相応しい活動ができるように、日本事務局もきちんとした仕事をしていきますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

ラオス千客万来

- 1月 3日 JETRO 山田健一郎氏 3名
- 1月 12日 日本 NGO ミーティング
- 1月 28日 埼玉県国際課と大宮アルディージャ 3名(写真上)
- 2月 2日 ADDP 八代英太顧問ご夫妻と理事 3名
- 2月 7日 茶道体験ラオス人、フランス人等 9名
- 2月 8日 GIZ & HELVETAS アジア代表 2名(写真下)
- 2月 20日 関西学院大学国際高校オンライン料理教室
- 2月 21日 ボランティア古谷朋子さんのご家族 3名
- 3月 5日 空手糸東流 8段原先生とお弟子さん 4名
- 3月 8日 豊田利久 IV-JAPAN 顧問
- 3月 8日 (株)キャムコム 3名



幸子のラオスだより ～ラオスで桜が咲いた～

ラオスで桜の開花が見られるのは乾季の12月から2月ごろまでの3カ月間です。

首都のビエンチャンでは見られませんが、ラオス北東部のハノイに近いフアパン県で見られます。ビエンチャンからはおよそ900kmくらいありますので、飛行機で1時間10分、長距離バスだと8時間くらいかかります。もともと桜がラオスにあったわけではなく、日本から移植して、苦勞の末ようやく成功しました。

フアパン県の県都サムヌアは織物でも有名で、世界中からバイヤーや織物愛好家が訪れます。また、もう一つの顔は1960年代に人民革命党の活動の中心地だったところで有名です。サムヌアのビエンサイ村には200以上もの洞窟があり、当時洞窟には人民革命党の会議室、病院、幹部等の住居があって、現在は公開されていて、今では一大観光地になっています。私も、20年前くらいに公開されたときに直ぐに革命本部があった洞窟等を見に行きました。

「アジアの障害者活動を支援する会」(ADDP)という日本のNGOがラオスの障害者支援で、フアパン県に障害者が多いことが分かり、障害者の自立支援をすること、また、折しもフアパン県知事からも桜公園の構想を聞き、是非、桜公園を実現したい、ということになったそうです。2013年7月に日本から5本のソメイヨシノの苗木を持参して、ビエンサイ村の農家の一角に試験的に植えてみたところ、翌年、見事に桜の花が咲いたのです。



それに勇気をもらって、2014年2月に日本のライオンズクラブや他団体からの支援でおよそ400本の桜の苗木を植えました。ソメイヨシノの他に沖縄緋寒桜、枝垂れ桜、大島桜などです。当初から京都の庭師の奥田龍司(りゅうじ)氏が同行して、粘土質の土壤改良、蟻塚や害虫の駆除方法等を指導して、まずはビエンサイの農地に植えたそうですが、ラオスの気候が分からず苦勞したそうですが、ラオスの雨季は5月ごろから10月頃まで続きますので、雨季の根腐れ対策も、オンラインで指導しました。村の人も総出で植樹を手伝ったのですが、障害者の人たちも大活躍しました。しかし、ソメイヨシノは当地になじまず全滅しましたが、400本の内、その他の種類の桜250本が元気に育ち、現在は6人の聴覚障害者が「桜守」として維持管理に当たって、障害者の自立にもつながりました。

桜公園の実現には、まずは農地で桜を強く育て、次にいよいよ土壤改良された60ヘクタールの「日ラオス友好桜公園」に移植しました。そして満開の桜公園が実現しました。

この公園はカイソン広場、歴史博物館の隣に位置しています。

今年2023年1月に更に150本の桜が追加植樹されました。今回も農地で強く育ててから桜公園に移植するそうです。2023年4月には3000メートルの滑走路の飛行場が桜公園の近くにオープンしますので、益々観光地として期待が高まっています。

いつもご寄付ありがとうございます。寄付者をご紹介します

2022年12月1日～2023年3月31日 ※敬称略・順不同

チャンパー山の民奨学金 寄付者 1口 60,000円

高岡万葉ロータリークラブ(5口)

カノック奨学金 寄付者 1口 12,000円

伊東慶子(1口),ガールスカウト千葉県第45団(1口),㈱エイ・シー・シー群馬(1口),河島一郎(1口),小松文子(1口),三澤純子(2口),宮澤雅博(2口),宮村肇(2口),黒田歩(1口),込山まち子(1口),根橋淑江(1口),宗像邦司(1口),小林佳代子(1口),松下俱子(1口),松茂良米子(2口),上原望(1口),大橋國江(2口),大野宏江(3口),中田みどり(2口),嶋美喜子(4口),奈良伊世(1口),廣田秀子(1口)

国際協力費・運営費 寄付者 ※2,000円未満は省略させていただきます

伊藤弘美(3,000円),㈱エイ・シー・シー群馬(10,000円),小松文子(3,000円),高岡万葉ロータリークラブ(14,500円),塚越幸代(3,000円),松本尚(8,000円),宮澤雅博(10,000円),㈱イチカワ北海食品(10,000円),林千根(5,000円),寮都産業㈱(16,650円),塩谷雄一(50,000円),荻原理江(10,000円),(公財)社会貢献支援財団(30,000円),高井富二子(8,000円),込山まち子(8,000円),斎藤敏一(50,000円),(一財)麗澤海外開発協会(50,000円),山内英雄(1,300,000円),小林佳代子(3,000円),松下俱子(3,000円),織田佐由子(12,000円),森田豊則(5,000円),清水康雄(5,000円),石綿美友紀(10,000円),大野宏江(4,000円),中田みどり(6,000円),田中誠吾(3,000円),嶋美喜子(2,000円),福田三佳(3,000円),齋藤友美恵(3,000円),吉野貴美子(20,000円)

SNSでもIV-JAPANのお知らせをご覧になれます。
ぜひ、ご登録おねがいいたします。



@IVJAPANHQ



@706lmpfg



@IvJapan



IVJAPANMIHASHI

“クレジットカード”からもご寄付できます！

(国際協力費・運営費のみ)

1回のご寄付または、毎月のご寄付
(500円～)をお選び頂けます。



詳しくは
←ホームページ
をご覧ください。

IV-JAPANの活動はみなさまのご寄付に支えられています

●IV-JAPANに寄付をすることで活動に参加しませんか？

- | | | |
|--------------|-----------------------------|----------------|
| ①カノック奨学金 | 12,000円(1口)以上 | 奨学生の授業料補助になります |
| ②チャンパー山の民奨学金 | 60,000円(1口)以上 | 訓練中の食費や交通費として |
| ③国際協力費・運営費 | 個人:3,000円以上/団体・法人:10,000円以上 | |

●申込方法 ※銀行振込の方は事務局までご住所等詳細をお知らせください。

郵便振替 : (口座番号) 00140-5-537168 (加入者名)IV-JAPAN

銀行振込 : 埼玉りそな銀行浦和中央支店 普通預金 口座番号:5038052

名義人:(特非)国際協力 NGO・IV-JAPAN



認定・埼玉県指定 特定非営利活動法人 国際協力 NGO・IV-JAPAN

当会へのご寄付は、寄付金控除の対象になります。

日本事務局

〒330-0856

埼玉県さいたま市大宮区三橋 2-545-2-101

TEL/FAX:048-622-8612

E-mail: iv-japan@vanilla.ocn.ne.jp

ホームページ:<https://iv-japan.org/>

ラオス事務所

P.O Box7920 Vientiane, Lao PDR

TEL/FAX : +856-21-316047

E-mail: ivjapan.vte@gmail.com



アカウントビリティ
セルフチェックマーク